



令和5年度 研修成果発表

幼小の架け橋期における 感情に焦点化した一次的支援の充実

島根県教育センター浜田教育センター
長期研修員 太田 景子
所属 邑南町立瑞穂小学校



➤ 研修の概要

➤ 計画1 幼児教育からの学び

➤ 計画2 感情教育からの学び

➤ 計画3 「1年生サポートナビ」の提案

➤ 今後に向けて



研修の概要



感情のコントロールが難しい児童



気持ちを理解してもらうのが難しい。

1年生



気持ちや状況をうまく伝えられない。

臨時休校明けの児童



気持ちを出すことも制限されていた可能性。

気持ちを「出す」、
「受け止める」
ことがしやすい。

安心感

感情を「視覚化」
することで、お互い
を理解できる。

周りの児童



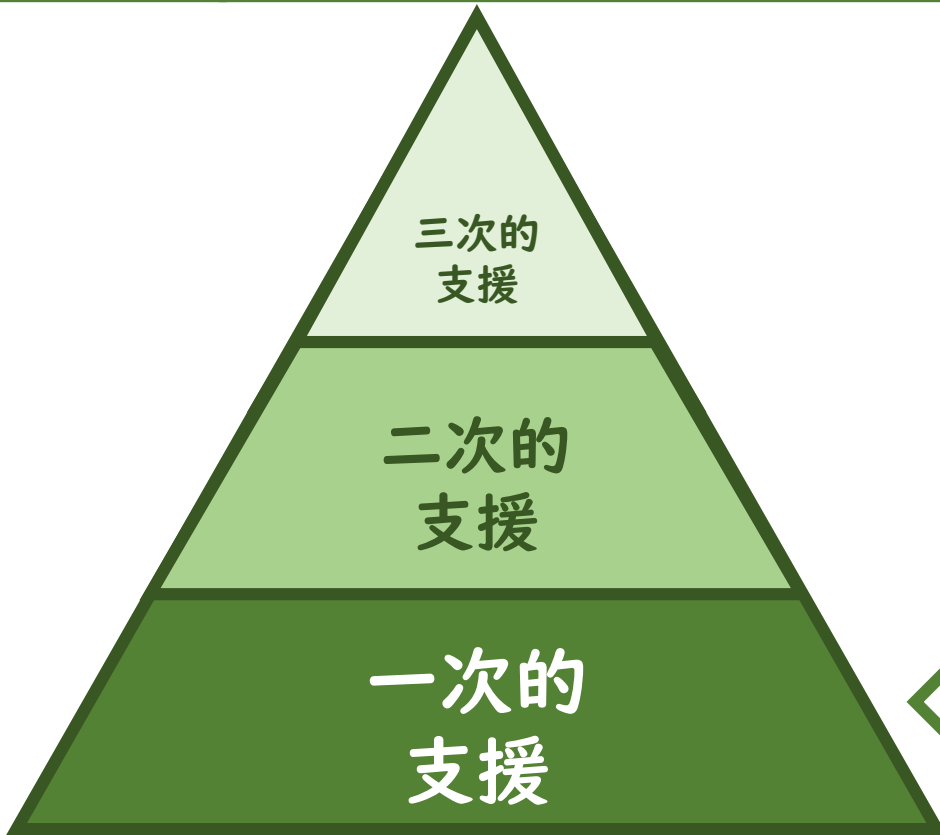
関わる大人



1年生にとって安心感につながれば、全児童・全職員の安心感につながるのではないか。

目的

1年生が安心して学校生活をスタートできるように、幼児期からのつながりを意識した一次的支援の充実に必要な視点を明らかにする。



「1年生サポートナビ」
1年生が、安心して気持ちを出せるような入学時の環境づくりや活動の展開例を提案する。

個別支援に併せて、学級全体に支援を行うことで、特別な支援を必要とする子どもや他の子どもの行動が改善される。

(森・岡村, 2018; 大久保ら, 2011a; 佐田東・加藤, 2013)

目的

1年生が安心して学校生活をスタートできるように、幼児期からのつながりを意識した一次的支援の充実に必要な視点を明らかにする。

背景

「気持ちを出す」「気持ちを受け止める」をしやすい環境づくりをしたい。

計画1

一次的支援を充実させるため、幼児教育から学ぶ。

背景

感情を「視覚化」することで、お互いを理解できるようにしたい。

計画2

感情の発達や視覚化の手立てを、感情教育から学ぶ。

計画3(ゴール)

1年生が、安心して気持ちを出せるような入学時の環境づくりや活動の展開例を提案する。

冊子「1年生サポートナビ」

(イントロダクション)

～子どもを知ろう～環境を整えるためのポイント～

- (1) 安心して自己を発揮できる環境
- (2) 主体的に学びに向かうことができる環境
- (3) 安心を生み、成長・自立を支える人的な環境
- (4) 子どもの立場に立った1日の流れ
- (5) カラーモニターで気持ちを表そう
- (6) 子どもの強みを見つけよう

1年生サポートナビ

～子ども達のために環境を整えよう～

「子どもの立場に立った」環境づくりや大人の関わりで、1年生が安心して過ごせるように、みんなでサポートしませんか。

1年生にとって安心感につながれば、全児童・全職員が安心感につながるのではないのでしょうか。

学級全体に行う支援を一次的支援と言います。『子どもの立場に立った』一次的支援を充実させることで、特別な支援を必要とする子ども、どの子どもも安心できる学級づくりを目指しましょう。

イントロダクション：環境を整えるためのポイント～子どもをイメージしよう～

① いろいろなタイプの子どもがいる。下のタイプが何を悩んでいます。

- しりとりタイプ：一つのことにしりとりし、他のことを気にしない。
- どどどタイプ：不安が大きいけれど、様子が変わると安心する。
- おしゃべりタイプ：好きなことを話して、他のことを気にしない。
- はりきりタイプ：スタートダッシュするが、途中で疲れる。

② こんなことになっているかもしれません。

- 他のことに気がついていないか...
- 今日は見てるけど、明日はやってみようと思ってるか...
- 次は1つのことをじっくりやりたいと思ってるか...
- がんばりすぎて息切れしちゃうかも...、周りが見えていないかも...

③ 子どもは1人1人違います。子どもも1人1人が「これならできる」と選べたり、見通しが持てたり、「次はやってみようかな」と見えるような全体への支援が一次的支援です。一次的支援のスタートは、支援の前に子ども1人1人の様子を見ることが必要です。支援後に1人1人の様子を見ることが必要です。

④ 一次的支援の学びを以下にまとめました。

- 子どもが自分で見てわかるための視覚的支援
- 子どものペースに合わせた時間配分
- 子どもが自分で気持ちを切り替えられるような環境的な配慮
- 子どもが気持ちを出したり、受け止めてもらえるような大人の関わり

(1) 安心して自己を発揮できる環境

① 見通しをもっと生活できるようにする

- a 1日の時間の流れ
- b 朝の支度の手順
- c 出番などの役割表示

② 生活の上まり等を視覚的に理解できるようにする

- a 引き出しの中の整理整頓
- b トイレ前の靴の揃え方
- c 目の高さの標示

③ 自分で選択して活動できるようにする

- a 教室内の遊びコーナーの設置
- b 遊べる1人1人の掲示
- c クールダウンの場を提供

(2) 主体的に学びに向かうことができる環境

① 学習形態を工夫し、協働的に学べるようにする

- a 机を寄せ合い、顔の交流と相談
- b グループで集まり活動
- c 床を使って、興味関心が同じ友達と試行錯誤

② 学習の場を広げることができるようにする

- a ずらり学習環境を整えた教室全体
- b 子どもが活用しやすい黑板报
- c 視覚に訴える黑板报の工夫

③ 学習のきっかけが生まれるようにする

- a 学習に活用できる資料の常設
- b 学びの足跡の掲示

(3) 安心を生み、成長・自立を支える人的な環境

① 教職員

- a 児童と一緒に活動を楽しむ
- b 児童の様子を細かく見守る
- c 児童の自発的発言を聞く
- d 笑顔で児童を迎える
- e 全教職員が1年生に関わる

② 他学年の児童

- a 上級生と集団登校
- b 6年生と遊ぶ
- c 2年生にダンスを教わってもらう

③ 家庭や地域の人々

- a 地域防犯守衛
- b 駐在所と一緒に防犯教室、交通安全教室
- c ストリートテリングや読み聞かせ
- d 家庭や地域との連携を図るための情報発信

(4) 1日の学校生活の実例

時刻	学校全体の動き	1年生の動き
8:10	朝の活動	自分の席で過ごす
8:25	朝の会	朝の準備
8:35	1時間目	朝の会
9:30	2時間目	教科学習
10:15	業間休み	生活科を核にした主体的な学習
10:35	3時間目	給食の準備
11:30	4時間目	給食
12:15	給食準備	給食
12:25	昼休み	片付け
13:25	掃除	教室の掃除
13:50	5時間目	掃除準備
14:35	帰りの会	1日の振り返り
14:45	下校	帰りの会

(5) カラーモニターで気持ちを表そう (4月1週目で実施)

【ねらい】「自分の気持ちに気づく」「自分の気持ちを表す」ことの良さに気づく。

【学習の内容】

- (1) アイスブレーキング
 - 子どもが好きな歌
 - 声と声に合わせて歌を答える活動をする
- (2) 絵本「カラーモニター」(水園書局)の読み聞かせ
 - 絵本を読む目的を知らせる
 - 「カラーモニター」の読み聞かせ
 - 色から想像される気持ちを問う
 - 絵本の場面をコピーした物を見せ、想像しやすくする
- (3) 振り返りまとめ
 - 毎朝の健康観察のように、自分の気持ちの健康観察をしてほしいと伝える。気持ちの色で表す方法を伝える。
 - 「今の気持ちは何色？」として、ワークシートに今の気持ちに合う色を塗る活動を行う。
 - 担任との共理解
 - 【ねらい】児童にとって、気持ちを表現する、思いを感じられるようにする。自由に気持ちを表す、自分の気持ちを表す、自分の気持ちを表す、自分の気持ちを表す。

(6) 子どもの強みを見つけよう～温かい関わりができる教師を目指してハピトラッカー～

子どもの思い通りに目がいってしまわないように、ハピトラッカー(習慣化のためのチェックリスト)を作成した。これは、子どもをよくするための、教師自身が変わるためのツールです。

【ねらい】

- 1人1人の強みを見つけ、子どもが保護者、教職員、地域の大人に伝えられるようにしてやる。その子の自身になるほらちろん、子どもを支える大人のまごじや関わりもわかってほしい。
- 【使い方】1日の終わりに、教員、子ども1人1人1人1人の関わりを思い出してみよう。
- 思い出せたら、トラッカーに○をします。思い出せない場合は、努力はしたので、/を記入します。/が多い子どもは自分が普段あまり関わっていない子どもかも知れません。意識的に関わっていくことができます。
- もし、具体的なエピソードを書く余裕があれば、日付とエピソードを記入しておきます。例に挙げてはいるような姿があった場合は、その欄に日付や簡単な理由を記入してください。

【続けるためのポイント】

- 1人1人を1週間ほど使います。年間を通して、4月に全員の分を印刷し、ファイルに入れておくのがおすすめです。毎日振り返る時間とスペースなどのリマインド機能で設定しておくことができます。最初はしんどいですが、やっつけうちに慣れてきます。

【続けるメリット】

- 教師間で、子どもに伝えられる!
- 個人間で、保護者に伝えられる!
- 地域の方との打合せで伝えられる!
- 所属や変換に使える!
- そして何より、自分自身の子どもを見る眼差しが変わります!
- そして、子どもへの声のかけ方が変わります!

【輪を広げてみましょう!】

- 1年生以外の学年でも使えます。
- 他の先生達と一緒に励まさないで取り組むのもいいですね。



計画1 幼児教育からの学び





目的

1年生が安心して学校生活をスタートできるように、幼児期からのつながりを意識した一次的支援の充実に必要な視点を明らかにする。

背景

「気持ちを出す」「気持ちを受け止める」をしやすい環境づくりをしたい。



計画1

一次的支援を充実させるため、幼児教育から学ぶ。



計画3(ゴール)

1年生が、安心して気持ちを出せるような入学時の環境づくりや活動の展開例を提案する。

背景

感情を「視覚化」することで、お互いを理解できるようにしたい。



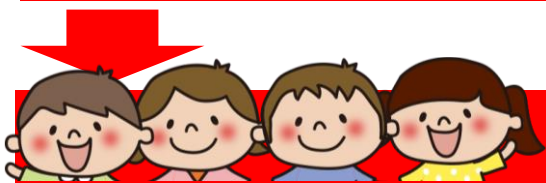
計画2

感情の発達や視覚化の手立てを、感情教育から学ぶ。



冊子「1年生サポートナビ」

子どもの立場に立って、その連続性や一貫性を保つことが必要。



子どもの立場

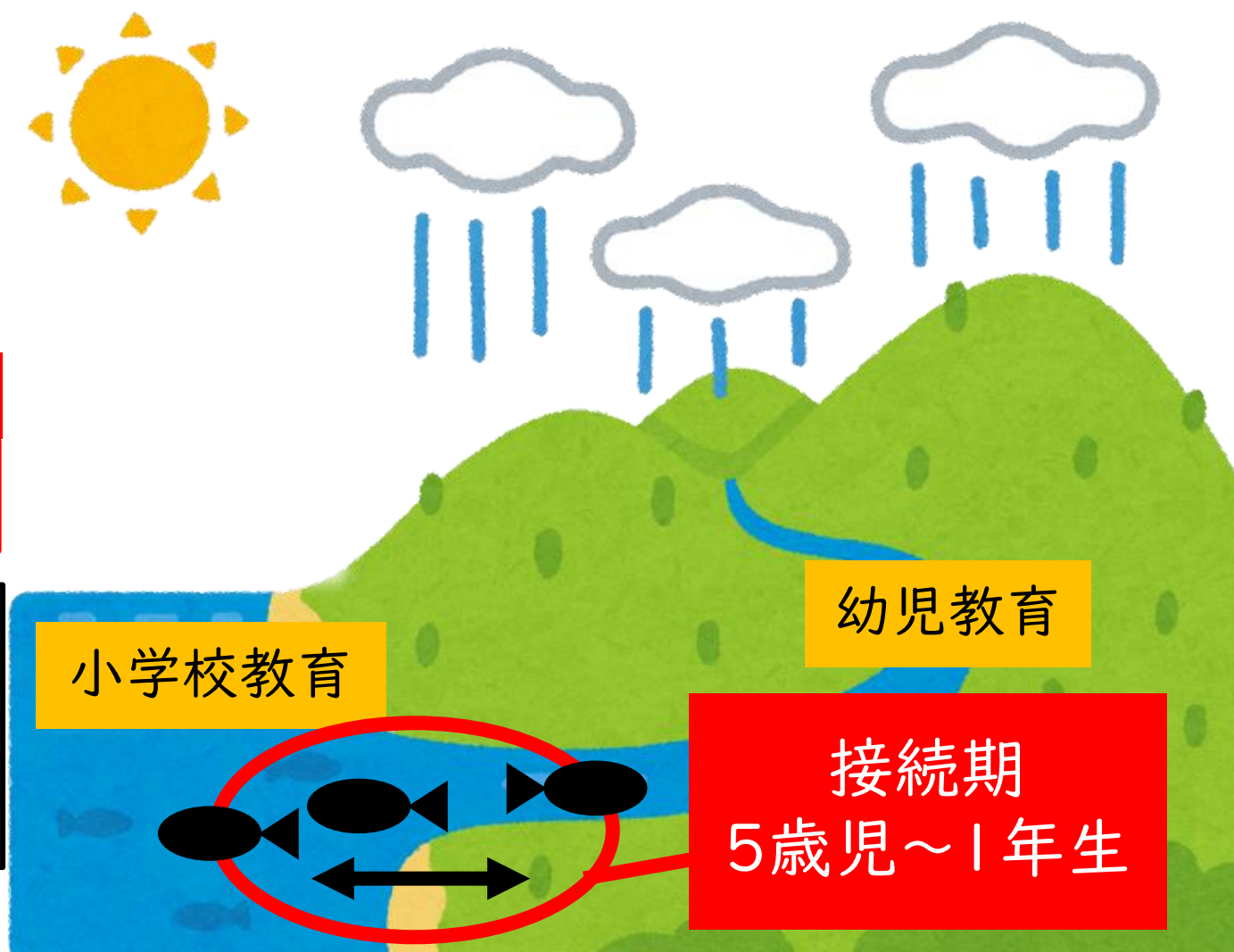
入学への期待感と不安感

- ・保育者・教職員の関わり
- ・環境づくり

「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)」
文部科学省 令和4年3月31日

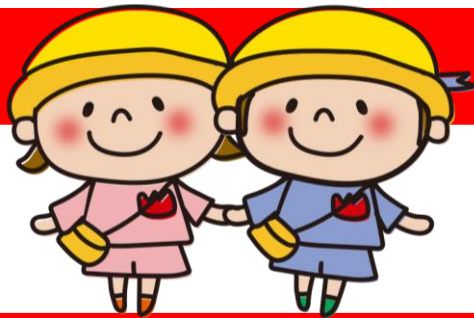


協力校の校区にある2つの保育所を訪問し、保育士の関わりや環境づくりについて調査する。



子どもの立場

やってみたい! 人の役に立ちたい!
「できた」を実感できる。



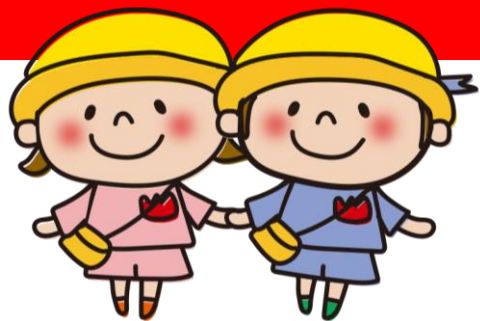
幼児が自分で確認できる、自分で選べる、自分でできる環境をつくる



役割をつくる



子どもの立場



なんだか、もやもやする。
悲しい、悔しい、残念、うれしい、楽しみな気持ち。
どんな気持ちも伝えられる。



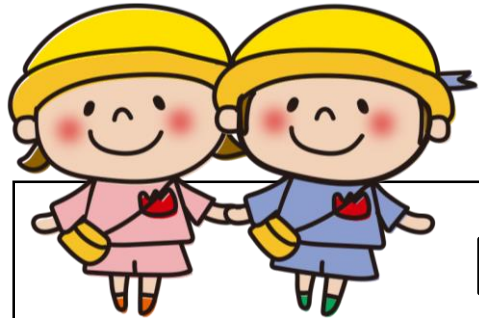
10秒チャージ



気持ちを色で表す



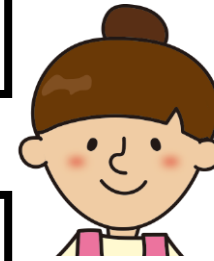
子どもの立場に立って、その連続性や一貫性を保つことが必要。



子どもの思い

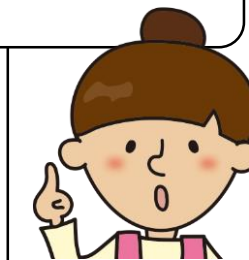
自分でやってみたい。
だけど、1人ではわからない
こともある。

そんな時は、助けてもらえると、
がんばれる。

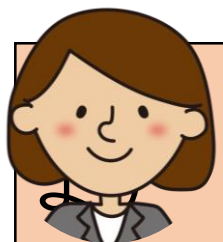


一人一人が願いや思
いを実現できるような
環境づくりの工夫や
声かけ、接し方

保育士の思い



これでよいのだろうか。
小学校はどう考えて
いるのだろうか。



連続性や一貫性を保つために、小学校の職員と共有し、一次的支援を
充実したものにす。



- (イントロダクション)
 ~子どもを知ろう~環境を整えるためのポイント~
- (1) 安心して自己を発揮できる環境
 - (2) 主体的に学びに向かうことができる環境
 - (3) 安心を生み、成長・自立を支える人的な環境
 - (4) 子どもの立場に立った1日の流れ
 - (5) カラーモニターで気持ちを表そう
 - (6) 子どもの強みを見つけよう

1年生サポートナビ

~子ども達のために環境を整えよう~

「子どもの立場に立った」環境づくりや大人の関わりで、1年生が安心して過ごせるように、みんなでサポートしませんか。

1年生にとって安心感につながれば、全児童・全職員が安心感につながるのではないのでしょうか。

学校全体に行う支援を一次的支援と言います。『子どもの立場に立った』一次的支援を充実させることで、特別な支援を必要とする子ども、どの子どもも安心して学校づくりを目指しましょう。

イントロダクション：環境を整えるためのポイント~子どもをイメージしよう~

- ① いろいろなタイプの子どもがいる。下のタイプの子をイメージしよう
 - しりとりタイプ: 1つのことばかり取り、他のことを聞かない。
 - 不安が大きいタイプ: 不安が大きいけれど、様子が変わると安心する。
 - 色々なタイプ: 不安が大きいけど、好きなことには集中する。
 - はりきりタイプ: スタートアップする。全力で取り組む。
- ② こんなことになっているかもしれない。
 - 他のことに気がついていないかも...
 - 今日は見てるけど、明日はやってみようと思ってるかも...
 - 次は1つのことをじっくりやりたいと思ってるかも...
 - がんばりすぎて息切れしちゃうかも...、周りが見えていないかも...
- ③ 子どもは1人1人違います。子どもも1人1人が「これならできる」と選べたり、見通しが持てたり、「次はやってみようかな」と見えるような全体への支援が一次的支援です。一次的支援のスタートは、支援の前に子ども1人1人を思いやること、支援をしている時に1人1人の様子を見取ることを、支援後1人1人の様子を確認することは必要です。
- ④ 一次的支援の学びを以下にまとめました。
 - 子どもが自分で見てわかるための視覚的支援
 - 子どものペースに合わせて時間配分
 - 子どもが自分で気持ちを切り替えられるような環境づくり
 - 子どもが気持ちを表したり、受け止めてもらえるような大人の関わり

(1) 安心して自己を発揮できる環境

- ① 見通しをもっと生活できるようにする
 - a 1日の時間の流れ
 - b 朝の支度の手順
 - c 出番などの役割表示
- ② 生活の上まり等を視覚的に理解できるようにする
 - a 引き出しの中の整理整頓
 - b トイレ前の靴の揃え方
 - c 目の高さの標示
- ③ 自分で選択して活動できるようにする
 - a 教室内の遊びコーナーの設置
 - b 選べる1日の掲示
 - c クールアワーの掲示

「自分のペースに合った活動」が実現できれば、子どもも安心して活動できる環境を整えられます。また、子どもが自分で活動できる環境を整えることで、子どもが自分で活動できる環境を整えられます。

(2) 主体的に学びに向かうことができる環境

① 学習形態を工夫し、協働的に学べるようにする

- a 机を寄せ合い、顔の交流と相談
- b グループで集まり活動
- c 床を使って、興味関心と同じ友達と試行錯誤

子ども達は、「新しくすること」には興味津々です。やり方を伝える時は、担任と支援員までロールプレイングのようにやってみたり、バレットで表して見せ、困ったときにはうすばいをかやってみるなど、「これならできそう」と事前にイメージを持たせます。

② 学習に寄り添うことができるようにする

- a ずっと寄り添った教員全員
- b 子どもが活用しやすい黒板
- c 視覚に訴える板書の工夫

③ 学習のきっかけが生まれるようにする

- a 学習に活用できる資料の常設
- b 学びの足跡の掲示

(3) 安心を生み、成長・自立を支える人的な環境

① 教職員

- a 児童と一緒に活動を楽しむ
- b 児童の様子を細かく見守る
- c 児童の自覚を促す
- d 笑顔で児童を迎える
- e 全教職員が1年生に関わる

校長先生にサインをもらう児童 学校探検で校長教諭に質問する児童

② 他学年の児童

- a 上級生と集団登校
- b 6年生と遊ぶ
- c 2年生にダンスを教わってもらう

③ 家庭や地域の人々

- a 地域防衛隊
- b 駐在所と一緒に防犯教室、交通安全教室
- c ストリートテラリングや読み語り
- d 家庭や地域との連携を図るための情報発信

(4) 1日の学校生活の実例

時刻	学校全体の動き	1年生の動き
8:10	朝の活動	自分の席で過ごす
8:25	朝の会	朝の準備
8:35	1時間目	朝の会
9:30	2時間目	教科学習
10:15	業間休み	生活科を核にした主体的な学習
10:35	3時間目	給食の準備
11:30	4時間目	給食
12:15	給食準備	給食
12:25	昼休み	片付け
13:25	掃除	教室の掃除
13:50	5時間目	掃除準備
14:35	帰りの会	1日の振り返り
14:45	下校	帰りの会

① 教職員

- a 児童と一緒に活動を楽しむ
- b 児童の様子を細かく見守る
- c 児童の自覚を促す
- d 笑顔で児童を迎える
- e 全教職員が1年生に関わる

② 他学年の児童

- a 上級生と集団登校
- b 6年生と遊ぶ
- c 2年生にダンスを教わってもらう

③ 家庭や地域の人々

- a 地域防衛隊
- b 駐在所と一緒に防犯教室、交通安全教室
- c ストリートテラリングや読み語り
- d 家庭や地域との連携を図るための情報発信

(5) カラーモニターで気持ちを表そう (4月1週目で実施)

【ねらい】「自分の気持ちに気づく」「自分の気持ちを表す」ことの良さに気づく。

【教材】カラーモニター、色紙、クレヨン、マジック、カード。

【学習の内容】

- (1) アイスブレーキング
 - 1人1人が好きな色を選び、声を出して伝える。
 - 大きな声で好きな色を伝える活動をする。
- (2) 絵本「カラーモニター」(水園書房)の読み聞かせ
 - 絵本の読み聞かせを聞き、気持ちに気づく。
 - カラーモニターの読み聞かせ
 - 色から想像される気持ちを問う。
 - 自分の気持ちを色で表せることを伝える。
- (3) 帰りの会
 - 毎朝の健康観察のように、自分の気持ちの健康観察をしてほしいと伝える。
 - 自分の気持ちを色で表せる方法を伝える。

【指導上の留意点】

- 楽しい雰囲気で行う。
- 声を出しては、伝えられる。声に出せることがいという活動を体験的に実施する。
- 大きな声で好きな色を伝える場合は、みんなから離れたところまで、参加してもらい伝えて伝える。
- 「カラーモニター」に出る5つの気持ちと色
 - 嬉しい=黄色
 - 悲しい=青色
 - 怒り=赤
 - 不安=黒
 - 寂しい=緑
- 色覚が弱い児童がいる場合は、色で表せるのではなく、各感情のモニターにスタンプを貼って尋ねていく。
- 色を塗りたくない場合は、無理強いないで、友達の活動を見ておくよう促す。
- 絵本の色にない気持ちの場合は、気持ちにぴったりの色を選ぶように伝える。
- 集中が途切れて、動き出す児童がいたら、もう少して誘われること、動いても大丈夫だから、聞いてほしいと伝える。
- 【3週目】絵本読み聞かせにチャレンジする。
- 【4週目】カラーモニターの色を塗る活動を行う。
- 【5週目】カラーモニターの色を塗る活動を行う。
- 【6週目】カラーモニターの色を塗る活動を行う。
- 【7週目】カラーモニターの色を塗る活動を行う。
- 【8週目】カラーモニターの色を塗る活動を行う。
- 【9週目】カラーモニターの色を塗る活動を行う。
- 【10週目】カラーモニターの色を塗る活動を行う。
- 【11週目】カラーモニターの色を塗る活動を行う。
- 【12週目】カラーモニターの色を塗る活動を行う。
- 【13週目】カラーモニターの色を塗る活動を行う。
- 【14週目】カラーモニターの色を塗る活動を行う。
- 【15週目】カラーモニターの色を塗る活動を行う。
- 【16週目】カラーモニターの色を塗る活動を行う。
- 【17週目】カラーモニターの色を塗る活動を行う。
- 【18週目】カラーモニターの色を塗る活動を行う。
- 【19週目】カラーモニターの色を塗る活動を行う。
- 【20週目】カラーモニターの色を塗る活動を行う。

(6) 子どもの強みを見つけよう~温かい関わりができる教師を目指してハピットラッカー~

子どもの困りごとばかりに目がいってしまわないように、ハピットラッカー(習慣化のためのチェックリスト)を作成した。これは、子どもをよくするための、教師自身が変えるためのツールです。

1人1人の強みを見つけよう、子どもが保護者、教職員、地域の大人に伝えられるように。その子の自身にもなるほらちろん、子どもを支える大人のまなざしや関わりもわかってほしい。

【使い方】

- 1人1人の強みに、数分間、子ども1人1人の関わりを思い出し、記入しよう。
- 思い出せたら、トラッカーに○をします。思い出せない場合は、努力はしたので、/を記入します。/が多い子どもは自分が普段あまり関わっていない子どもかも知れません。意識的に関わっていくことができます。
- もし、具体的なエピソードを書く余裕があれば、日付とエピソードを記入しておきます。例に挙げています。よくあった場合は、その欄に日付や簡単な理由を記入してください。

【続けるためのポイント】

- 1人1人を1週間ずつ使います。
- 年間を通して、4月に全員の印刷し、ファイルしておくと便利です。
- 毎日振り返り時間やスタンプなどのリマインド機能で設定しておくことができます。
- 最初はしんどいですが、やっつけうちに慣れます。

【続けるメリット】

- 教師間で、子どもに伝えられる!
- 個人間で、保護者に伝えられる!
- 地域の方との打合せで伝えられる!
- 所見や連絡に使える!
- そして何より、自分自身の子どもを見る眼差しが変わります!
- そして、子どもへの声のかけ方が変わります!

【幅を広げよう!】

- 1年生以外の学年でも使えます。
- 他の先生達と一緒に励まさないで取り組むのもいいですね。



イントロダクション：環境を整えるためのポイント～子どもをイメージしよう～

① いろいろなタイプの子どもがいます。下のタイプ以外にも様々です。

じっくりタイプ

1つのことにじっくり取り組む。



どきどきタイプ

不安が大きいけれど、様子がわかると取り組める。



そわそわタイプ

色々なことが気になって、ちょこちょこ色々試してみる。



はりきりタイプ

スタートダッシュするよ。全力投球!



子ども一人一人を思い浮かべる

他のことに気づいていないかも…。



今日は見ているけど、明日はやってみようと思っているかも…。



次は1つのことをじっくりやりたいと思っているかも…。



がんばりすぎて息切れしちゃうかも…。周りが見えていないかも…。



③ 子どもは1人1人違います。子ども達1人1人が「これならできる!」と選べたり、見通しが持てたり、「次はやってみようかな。」と思えるような全体への支援が一次的支援です。一次的支援のスタートは、支援の前に子ども1人1人を思い浮かべることで、支援をしている時に1人1人の様子を見取ることを、支援後1人1人の様子を振り返ることではないでしょうか。

子どもの立場に立った視点



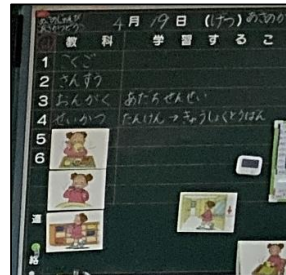
どの子どもががんばりたいと思っています。その手助けになる用意をしましょう。不安な子や周りの様子に気づいてない子には、声をかけ、一緒に見ながら確認すると、安心につながります。

① 見通しをもって生活できるようにする

a 1日の時間の流れ

b 朝の支度の手順

c 当番などの役割表示

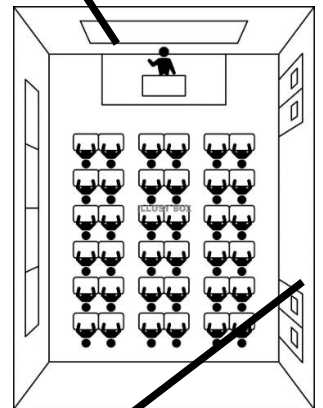
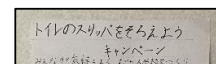


② 生活上のきまり等を視覚的に理解できるようにする

a 引き出しの中の整理整頓

b トイレ前の靴の揃え方

c 目の高さの掲示



▶▶ 計画2 感情教育からの学び ▶▶

目的

1年生が安心して学校生活をスタートできるように、幼児期からのつながりを意識した一次的支援の充実に必要な視点を明らかにする。

背景

「気持ちを出す」「気持ちを受け止める」をしやすい環境づくりをしたい。

計画1

一次的支援を充実させるため、幼児教育から学ぶ。

背景

感情を「視覚化」することで、お互いを理解できるようにしたい。

計画2

感情の発達や視覚化の手立てを、感情教育から学ぶ。

計画3(ゴール)

1年生が、安心して気持ちを出せるような入学時の環境づくりや活動の展開例を提案する。

冊子「1年生サポートナビ」

自分の感情がわからない子どもが増えている。

参考文献『「ちゃんと泣ける子に育てよう」親には子どもの感情を育てる義務がある』（河出書房新社）大河原美以

低学年から中学年にかけて、感情が分化していく、感情の種類やレベルを分類できるようになる。

参考文献『キレイやすい子の理解と対応』（ほんの森出版）本田恵子

おおむね10歳以降になるとポジティブとネガティブの両価の感情を言語化でき、理由も説明できるようになる。

参考文献『ソーシャル・エモーショナル・ラーニング非認知能力を育てる教育フレームワーク』（福村出版）渡辺弥生 小泉令三



特別支援学級や1～3年の通常の学級で、感情に関する授業や取組を行う。

授業

ねらい：気持ちに気づく
(自立活動・特別活動)



日常の取組

ねらい：気持ちを出す
(毎朝行う)



子ども達は、気持ちを出しやすくなるか。

一次的支援 学級の児童全員がわかる・知っているようにする=授業を行う

体験と気持ちが対応するような活動のある授業展開にする

【授業①】

絵本の読み聞かせ



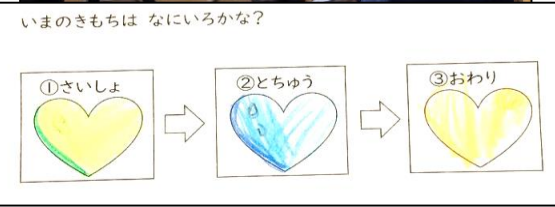
【授業②】

一目で状況がわかるイラストの提示



【授業③】

ジャンケン列車
フルーツバスケット



どのような活動を行うと、児童は自分の気持ちに気づきやすくなるか。

1年生の様子



言葉でもわかり伝えられる。

快か不快はわかる。でもそれ以上はうまく伝えられない。

言葉でもわかるけど、声に出すのが不安。

言葉ではよくわからないけど、雰囲気や表情でならわかる。

色ならわかる!

色・表情・言葉、どれかを使って伝えられる

色・表情・言葉から、友だちの気持ちもわかる

視覚化カード

色

表情

言葉

うれしい

日常の取組

【授業①後】
毎朝、自分の気持ちに合う色を塗る活動



【授業②後】
毎朝、自分の気持ちに合う色を選ぶ活動



児童も職員も誰もがわかる状態をつくる



気持ちを色で表すことについて児童へのアンケート結果（「はい」と応えた児童数と割合）

	1年 回答数19	1年 割合	2年 回答数13	2年 割合	3年 回答数26	3年 割合
① 自分の気持ちを 色にすることが できましたか。	18	0.9	12	0.9	26	1
② 色にすると、気持ちが わかりやすいですか。	19	1	9	0.7	26	1
③ 前より 自分の気持ちを 考えるようになりましたか。	17	0.9	8	0.6	26	1
④ これからも 自分の気持ちを 色にしてみたいですか。	16	0.8	12	0.9	25	1

児童の感想

自分の気持ちを色にあらわすのは、むずかしかった。でも、気持ちを色をぬって見ると、すこしい心が、きりした。心を気持ちを色にして見るのは楽しいと思いました。

色をぬる前は、けんこうが、さつて、はい元気ですが、言わなから、けど、カラーモンスターをぬりはじめ、自分の気持ちをぬって、スッキリしました。

児童への日常の取組のアンケート結果

	1年	2年	3年	主な理由
色を塗る	4	6	3	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい気持ちになる ・自分の気持ちが二つ以上ある時も書ける ・色を塗ると楽しい気持ちになる ・選択ではなく、自分の以下の気持ちに合う色を見つけられ、自分の気持ちを一番表せる。 ・自分の気持ちの移り変わりが記録でき、振り返れる
先生が聞く	5	2	3	<ul style="list-style-type: none"> ・先生が聞いてくれると、忘れずにすむ ・先生が聞いてくれると、気持ちがわかりやすい ・先生に不安な気持ちを言える
色を選ぶ	10	5	21	<ul style="list-style-type: none"> ・楽にできる・便利・簡単 ・選ぶ方がわかりやすい ・自分の気持ちを言うのが苦手だから、選ぶ方がよい ・恥ずかしがり屋だから選ぶ方がよい

色で気持ちを表すことを、肯定的に受け止めている。
楽しさや手軽さ、わかりやすさを求めている。



- ・読み聞かせは児童も楽しみながら聞いていた。
- ・読み聞かせの後、色やモンスターの様子から、どんな気持ちかを考え、発言することができていた。
- ・イラスト提示は、低学年には提示する数の工夫や話を聞いてばかりにならないような工夫が必要である。
- ・ジャンケン列車などの活動の途中や終わりに視覚化カードがあると、気持ちを振り返りやすい。
- ・「今日は雨だったから、青色なの。」など児童から気持ちを話すことが増えた。
- ・視覚化カードがあると、授業でも、日々の関わりの中でも、すぐに活用できる。
- ・イライラしている児童への子ども同士の言葉がけに変化が見られた。
例：「今、怒っているようだから、待っていよう。」「今はおだやかな気持ちに見えるよ。」



授業では、活動を通じたほうが気持ちを表現しやすい。
日常の中でも、児童が、自分からその時に気持ちについて話したり、友達への関わりに変化が見られたりした。



- ・表現した色をもとに、その日その時の気分や状態を確認できた。児童が言葉で伝えにくい時でも、色を使って尋ねることができる。
- ・色を塗っている時の考えている姿やひとり言にも目を向けることで、会話を弾ませることができた。
- ・1日の中で感情に変化のあった児童が、自分で名前を動かしていた。
- ・感情的な子やおとなしい子、全ての子が気持ちを整理し、この色にしたのにはこんな理由があるんだよと教えてくれることがたくさんあった。
- ・毎日チェックのボードを見て、気持ちの暗い子に声かけをする様子が見られたから。
- ・3年生の子は、「〇〇ちゃん、今日、ちょっとイライラしてるみたい。」など友達のことを心配している女の子がいました。
- ・「みんなが見る」ということを意識して、正直な気持ちを表現できない児童も見られたが、こっそり尋ねると正直な気持ちを答えてくれた。その子のその時の感情を知るために、私自身とても役に立った。
- ・色で気持ちを表現する場合、色のイメージが先行してしまい、決めつけがちになってしまうこともあった。個々が持っているイメージや理由づけはそれぞれ違うので、多数の意見と違っていても大切にしたいと思った。



普段、気になっている児童の背景に目を向けることができた。



児童も職員も誰もが気持ちの出し方を知る機会や気持ちを出す場をつくる



子どもの姿

自分の気持ちを積極的に伝えたり、相手の気持ちを考えたりできる。

- (イントロダクション)
 ~子どもを知ろう~環境を整えるためのポイント~
- (1) 安心して自己を発揮できる環境
 - (2) 主体的に学びに向かうことができる環境
 - (3) 安心を生み、成長・自立を支える人的な環境
 - (4) 子どもの立場に立った1日の流れ
 - (5) カラーモンスターで気持ちを表そう
 - (6) 子どもの強みを見つけよう

1年生サポートナビ
 ~子ども達のために環境を整えよう~

「子どもの立場に立った」環境づくりや大人の関わりで、1年生が安心して過ごせるように、みんなでサポートしましょう。

1年生にとって安心感につながれば、全児童・全職員が安心感につながるのではないのでしょうか。

学校全体に行う支援を一次的支援と言います。『子どもの立場に立った』一次的支援を充実させることで、特別な支援を必要とする子ども、どの子どもも安心して学校づくりを目指しましょう。

イントロダクション：環境を整えるためのポイント~子どもをイメージしよう~

① いろいろなタイプの子どもがいる。下のタイプが何を悩んでいます。

しりとりタイプ	どきどきタイプ	おしゃべりタイプ	はりきりタイプ
1つのことばかり取り、他のことを聞かない。	不安が大きいけれど、様子がわかると落ち着く。	色々なことが気になって、なかなか色づいて来ない。	スタートアップをする。全員の視線を気にする。

② こんなことになっているかもしれない。

他のことに気づいていないかも...	今日は見てるけど、明日はやってみようと思ってるかも...	次は1つのことをじっくりやりたいと思ってるかも...	がんばりすぎて息切れしちゃうかも...、周りが見えていないかも...
-------------------	------------------------------	----------------------------	------------------------------------

③ 子どもは1人1人違います。子どもも1人1人が「これならできる」と進んだり、見通しが持てたり、「次はやってみようかな。」と居るような全体への支援が一次的支援です。一次的支援のスタートは、先生の前に子ども1人1人を見いだすこと、支援をしていく時に1人1人の様子を見取ることを、支援後1人1人の様子を確認することは必要ではないでしょうか。

④ 一次的支援の学びを以下にまとめました。

1日の様子	1日の振り返り
<ul style="list-style-type: none"> 子どもが自分で見てできるための視覚的支援 子どものペースに合わせて時間配分 子どもが自分で気持ちを切り替えられるような機会や場の設置 子どもが気持ちをしたり、受け止められる場や大人の関わり 	<ul style="list-style-type: none"> 思いやりのある関わり 子どもが安心して過ごせる環境づくり 子どもが安心して過ごせる環境づくり 子どもが安心して過ごせる環境づくり 子どもが安心して過ごせる環境づくり 子どもが安心して過ごせる環境づくり

(1) 安心して自己を発揮できる環境

① 見通しをもっと生活できるようにする

o 1日の時間の流れ b 朝の支度の手順 c 出番などの役割表示

② 生活をより丁寧に理解できるようにする

o 引き出しの整理整頓

b トイレ前の靴の揃え方 c 目の高さの掲示

③ 自分で選択して活動できるようにする

o 教室内の遊びコーナーの設置 b 遊べる1人1人1人の掲示

o クールダウンの場を確保

o 自分たちで決めて活動できるようにする

o 教室内の遊びコーナーの設置 b 遊べる1人1人1人の掲示

o クールダウンの場を確保

(2) 主体的に学びに向かうことができる環境

① 学習形態を工夫し、協働的に学べるようにする

a 机を寄せ合い、顔の交流と相談 b グループで集まり活動 c 床を使って、興味関心と同じ友達と試行錯誤

② 学習のきっかけが生まれるようにする

o 学習に活用できる資料の常設 b 学びの足跡の掲示

(3) 安心を生み、成長・自立を支える人的な環境

① 教職員

a 児童と一緒に活動を楽しむ b 児童の様子を細かく見守る c 児童の言葉を聴く d 笑顔で児童を迎える e 全教職員が1年生に関わる

② 他学年の児童

a 上級生と集団遊び b 6年生と遊ぶ c 2年生にダンスを教えてもらう

③ 家庭や地域の人々

a 地域防犯隊 b 駐在所と一緒に防犯教室、交通安全教室 c ストリートテラリングや読み語り d 家庭や地域との連携を図るための情報発信

(4) 1日の学校生活の実例

時刻	学校全体の動き	1年生の動き
8:10	朝の活動	自分の席で過ごす
8:25	朝の会	朝の準備
8:35	1時間目	朝の会
9:30	2時間目	教科学習
10:15	業間休み	生活科を核とした主体的な学習
10:35	3時間目	給食の準備
11:30	4時間目	給食
12:15	給食準備	給食
12:25	昼休み	片付け
13:25	掃除	教室の掃除
13:50	5時間目	掃除準備
14:35	帰りの会	1日の振り返り
14:45	下校	明日への期待感を高める活動

各担任が「新年度に大事にしていること」

- ① 負荷をかけすぎない。
- ② 小さなお子と全員目が合った瞬間を体感する。
- ③ 小さなお子でも全員で確認し、全員が喜び、楽しむ。
- ④ 次から、どう接しようかを子ども達と一緒に考える。
- ⑤ 「今日も楽しかった」と笑顔で帰って帰るような学校づくり。

(5) カラーモンスターで気持ちを表そう (4月1週目で実施)

【ねらい】「自分の気持ちに気づく」「自分の気持ちを表す」ことの良さに気づく。

【学習の内容】

学習の内容	指導上の留意点
<p>① (1) アイスブレイキング</p> <p>o オドモちゃん好きゲーム</p> <p>o 声と手ぶらで気持ちを表す活動をする。</p>	<p>-楽しい雰囲気で行う。</p> <p>-声はしてはく、伝えられる、声に出せることというのを体験的に実感させる。</p> <p>-大きな声で答える児童がいる場合は、みんなから離れてから、参加してもよいことを伝える。</p>
<p>② (2) 絵本「カラーモンスター」(水岡真由の絵本)</p> <p>o 絵本の読み聞かせを聞き、気持ちに気づく</p> <p>o 絵本を読む目的を知らせる。</p> <p>o 「カラーモンスター」の読み聞かせ</p> <p>o 色から想像される気持ちを問う。</p> <p>o 絵本の場面をコピーした物を提示し、想像しやすくする。</p>	<p>-「カラーモンスター」に出る5つの気持ちと色</p> <p>感情がわかる場面は、色で表現するのは、各感情のモンスターにイメージを尋ねていくこと。</p> <p>絵本を見やすい場所に貼るよう伝える。</p> <p>-絵本の場面をコピーした物を提示し、想像しやすくする。</p> <p>色を塗りたくない場合は、無理強いないで、友だちの活動を観ておくよう促す。</p> <p>-絵本の色にはない気持ちの場合は、気持ちにぴったりの色を選ぶように伝える。</p>
<p>③ (3) 振り返りまとめ</p> <p>o 毎朝の健康観察のように、自分の気持ちの健康観察をしてほしいことを伝える。気持ちの色で表す方法を伝える。</p>	<p>-集中が途切れて、動き出す児童がいたら、もう少し待たせよう。</p> <p>-動くことで、動かない児童がいたら、聞いてほしいことを伝える。</p>

(6) 子どもの強みを見つけよう~温かい関わりができる教師を目指すハピットラッカー~

子どもの感情ばかりに目がいってしまわないように、ハピットラッカー(習慣化のためのチェックリスト)を作成した。これは、子どもをよくするためのだけでなく、教師自身が変わるためのツールです。

【ねらい】

1人1人の強みを見つけ、子どもが保護者・教職員、地域の人に伝えられるといいですね。その子の自身になるほらちろん、子どもを支える大人のまごじや関わりもわかってほしい。

【使い方】

1人の終わりに、数分間、子ども1人1人1人の関わりを思い出してみよう。

思い出せたら、トラッカーに○をします。思い出せない場合は、努力はしたので、△を記入します。△が多い場合は自分が普段あまり関わっていない子どもかも知れません。意識的に関わっていくことができます。

もし、具体的なエピソードを書く余裕があれば、日付とエピソードを記入しておきます。例に挙げてはいるような姿があった場合は、その欄に日付や簡単な理由をおくるとよいです。

【続けるためのポイント】

1人1日を1週間単位で使います。

年報を提出して、4月に全員分印刷し、ファイルに入れておくのがおすすめです。

毎日振り返り時間やサポートなどのリマインド機能で設定しておくことができます。

最初はしんどいですが、やっつけうちに慣れます。

【続けるメリット】

教師間で、子どもに伝えられる!

個人間で、保護者に伝えられる!

地域の方との打合せで伝えられる!

所属や業務に使える!

そして何より、自分自身の子どもを見る眼差しが変わります!

そして、子どもへの声のかけ方が変わります!

【幅を広げよう】

1年生以外の学年でも使えます。

他の先生達と一緒に励まさないで取り組むのもいいですね。



(3) 安心を生み、成長・自立を支える人的な環境

【大事な姿勢】

- 共に考える ○励ます
- 共に喜ぶ ○成長を期待して見守る

子どもが気持ちを出しやすい関わり

① 教職員

- a 児童と一緒に活動を楽しむ
- b 児童の様子を温かく見守る
- c 児童の目線で話を聞く
- d 笑顔で児童を迎える
- e 全教職員が1年生に関わる



校長先生にサインをもらう児童



学校探検で栄養教諭に質問をする児童

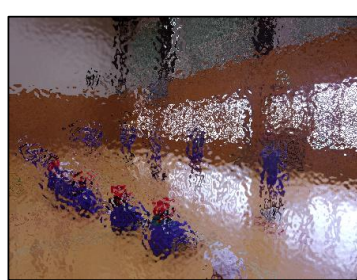
子どもに合わせる!

「その子の意欲が高まるように、その子の不安が少なくなるように、その子に合わせる」

この視点を忘れずにいたいですね。

② 他学年の児童

- a 上級生と集団登校
- b 6年生と遊ぶ
- c 2年生にダンスを教えてもらう



- d 縦割り班顔合わせ→縦割り班遊び



上学年の立場に立って、「1年生のために」「学校のために」「役に立ちたい」という気持ちを実現できる場に行けるよう、担任間で具体的な場や方法など打ち合わせるといいですね。

上級生との関わりが安心感やあこがれにつながるといいですね。
児童会担当や、他の学年の担任

(5) カラーモンスターで気持ちを表そう (4月1週目で実施)

色と表情と言葉をマッチングさせたカードにする。

【ねらい】「自分の気持ちに気づく」「自分の気持ちを出す」ことの良さに気づく。



気持ちを視覚化する手立て

導 入	<p>○どっちが好きゲーム</p> <p>・海と山などどちらが好きかを答える活動をする。</p>	<p>・善し悪しではなく、伝えられる、声に出せることがいいということを体験的に実感させる。</p> <p>・大きな声が苦手な児童がいる場合は、みんなから離れたところで、参加してもよいことを伝える。</p>
展 開	<p>(2) 絵本「カラーモンスター」(永岡書店)の読み聞かせ</p> <p>絵本の読み聞かせを聞き、気持ちにはいくつか種類があることを知る。</p> <p>○絵本を読む目的を知らせる。</p> <p>○「カラーモンスター」の読み聞かせ</p> <p>○色から想起される気持ちを問う。</p> <p>○自分の気持ちを色で表せることを伝える。</p>	<p>・「カラーモンスター」に出てくる5つの気持ちと色</p> <p>嬉しい=黄色 悲しい=青色 怒り=赤 不安=黒 穏やか=緑</p> <p>色覚障がいのある児童がいる場合は、色で尋ねるのではなく、各感情のモンスターにネーミングして尋ねていくとよい。</p> <p>・絵本が見やすい場所に座るように伝える。</p> <p>・絵本の場面をコピーした物を掲示し、想起しやすくする。</p> <p>・色を塗りにくい場合は、無理強いせず、友だちの活動を見ておくよう促す。</p> <p>・絵本の色にはない気持ちの場合は、気持ちにぴったりの色を塗るように伝える。</p>
ま と め	<p>(3) 振り返り・まとめ</p> <p>○毎朝の健康観察のように、自分の気持ちの健康観察をしてほしいことを伝える。気持ちを色で表す方法を伝える</p>	<p>・集中が途切れて、動き出す児童がいたら、もう少しで終わることや、動いても大丈夫だから、聞いてほしいことを伝える。</p>

▶▶ 計画3 「1年生サポートナビ」の提案 ▶▶

目的

1年生が安心して学校生活をスタートできるように、幼児期からのつながりを意識した一次的支援の充実に必要な視点を明らかにする。

背景

「気持ちを出す」「気持ちを受け止める」をしやすい環境づくりをしたい。



計画1

一次的支援を充実させるため、幼児教育から学ぶ。



背景

感情を「視覚化」することで、お互いを理解できるようにしたい。



計画2

感情の発達や視覚化の手立てを、感情教育から学ぶ。



計画3(ゴール)

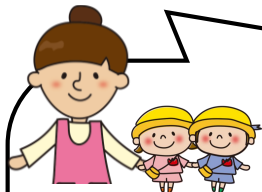
1年生が、安心して気持ちを出せるような入学時の環境づくりや活動の展開例を提案する。

冊子「1年生サポートナビ」

保育所

子どもの立場に立った大人の関わりや環境づくり

小学校

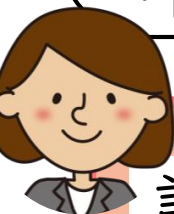


- ・自分で決めて、自分で行動できるようにする。
- ・園児同士の関わりが生まれるようにする。
- ・すぐに指示や答えを示さず、園児が納得、満足するまで見守る、寄り添う。
- ・園児が自ら動けるような工夫をする。

不安感
プレッ
シャー

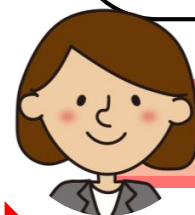


- ・負担をかけすぎない。
- ・小さなことでも全員が「できた」を体感する。
- ・小さなトラブルでも全員で確認し、全員の学びにする。
- ・「保育所との違い」をプラスに、「保育所と同じ」をやる気につなげる言葉がけ。



課題

大人の立場の「～すべき」に陥りやすいのではないか。小学校入学期のみの適応指導と捉えてしまう可能性がある。



お互いの様子を伝える場をもった。



小学校のことを知りたい。



保育所のことを知る必要がある。

- (イントロダクション)
 ~子どもを知ろう~環境を整えるためのポイント~
- (1) 安心して自己を発揮できる環境
 - (2) 主体的に学びに向かうことができる環境
 - (3) 安心を生み、成長・自立を支える人的な環境
 - (4) 子どもの立場に立った1日の流れ
 - (5) カラーモンスターで気持ちを表そう
 - (6) 子どもの強みを見つけよう

1年生サポートナビ

~子ども達のために環境を整えよう~

「子どもの立場に立った」環境づくりや大人の関わりで、1年生が安心して過ごせるように、みんなでサポートしませんか。

1年生にとって安心感につながれば、全児童・全職員が安心感につながるのではないのでしょうか。

学校全体に行う支援を一次的支援と言います。『子どもの立場に立った』一次的支援を充実させることで、特別な支援を必要とする子どもも、どの子どもも安心して学校づくりを目指しましょう。

イントロダクション：環境を整えるためのポイント~子どもをイメージしよう~

① いろいろなタイプの子どもがいる。下のタイプが何を悩んでいます。

- しりとりタイプ: 1つのことばかり取り、他のことに気がつかない。
- 不安が大きいタイプ: 不安が大きいけれど、様子がわかると安心する。
- 忘れっぽいタイプ: 忘れっぽいので、大事なことを覚えておくのが難しい。
- はりきりタイプ: スタートアップする。全力で頑張る。

② こんなことになっているかもしれません。

- 他のことに気がついていないかも...
- 今日は見えても、明日はやってみようと思っているかも...
- 次は1つのことをじっくりやりたいと思っているかも...
- がんばりすぎて息切れしちゃうかも...、疲れて見えないかも...

③ 子どもは1人1人違います。子どもも1人1人が「これならできる」と選べたり、見通しが持てたり、「次はやってみようかな」と見えるような全体への支援が一次的支援です。一次的支援のスタートは、支援の前に子ども1人1人を思いやること、支援をしている時に1人1人の様子を見取ることを、支援後1人1人の様子を確認することは必要ではないでしょうか。

④ 一次的支援の学びを以下にまとめました。

- 子どもが自分で見てわかるための視覚的支援
- 子どものペースに合わせた時間配分
- 子どもが自分で気持ちを切り替えられるような環境づくり
- 子どもが気持ちを表したり、受け止められるような大人との関わり

(1) 安心して自己を発揮できる環境

① 見通しをもっと生活できるようにする

- o 1日の時間の流れ
- o 朝の支度の手順
- o 出番などの役割表示

② 生活をよりスムーズに理解できるようにする

- o 引き出しの中の整理整頓

③ 自分で選択して活動できるようにする

- o 教室内の遊びコーナーの設置
- o 遊べるよう場所の明示
- o クールダウンの場を提供

④ 自分から声をかけられるようにする

- o 声かけのカード

(2) 主体的に学びに向かうことができる環境

① 学習形態を工夫し、協働的に学べるようにする

- o 机を寄せ合い、顔の交流と相対
- o グループで集まり活動
- o 床を使って、興味関心が同じ友達と試行錯誤

② 学習に集中できるようにする

- o 学習に活用できる資料の常設
- o 学びの足跡の明示

(3) 安心を生み、成長・自立を支える人的な環境

① 教職員

- o 児童と一緒に活動を楽しむ
- o 児童の様子を細かく見守る
- o 児童の自覚を促す
- o 笑顔で児童を迎える
- o 全教職員が1年生に関わる

② 他学年の児童

- o 上級生と集団登校
- o 6年生と遊ぶ
- o 2年生にダンスを教わってもらう

③ 家庭や地域の人々

- o 地域防犯隊
- o 駐在所と一緒に防犯教室、交通安全教室
- o ストリートテラリング体験
- o 家庭や地域との連携を図るための情報発信

(4) 1日の学校生活の実例

時刻	学校全体の動き	1年生の動き
8:10	朝の活動	自分の席で過ごす
8:25	朝の会	朝の準備
8:35	1時間目	朝の会
9:30	2時間目	教科学習
10:15	業間休み	生活科を核にした主体的な学習
10:35	3時間目	給食の準備
11:30	4時間目	給食
12:15	給食準備	給食
12:25	昼休み	片付け
13:25	掃除	教室の掃除
13:50	5時間目	掃除準備
14:35	帰りの会	1日の振り返り
14:45	下校	帰りの会

(5) カラーモンスターで気持ちを表そう (4月1週目で実施)

【ねらい】「自分の気持ちに気づく」「自分の気持ちを表す」ことの良さに気づく。

【学習の内容】

- (1) アイスブレーキング
 - o 人ごみが好きゲーム
 - o 声と手ごたえがわかる
- (2) 絵本「カラーモンスター」(水園書房)の読み聞かせ
 - o 絵本の読み聞かせを聞き、気持ちに気づく
 - o カラーモンスターの読み聞かせ
 - o 色から想像される気持ちを問う
 - o 自分の気持ちを色で表せることを伝える。
- (3) 振り返り・まとめ
 - o 毎朝の健康観察のように、自分の気持ちの健康観察をしてほしいと伝える。気持ちの色で表す方法を伝える。
 - o 「今の気持ちは何色？」と題して、ワークシートへの記入を促す。
 - o 担当との共有
 - o 「何い児童にとって、気持ちを表すと、いかに感じるようになる。自由に気持ちを表すように促す。
 - o 【NG対応】無理強いはする。表した感情を否定する。無視する。

(6) 子どもの強みを見つけよう~温かい関わりができる教師を目指してハピットラッカー~

子どもの思い通りに目がいってしまわないように、ハピットラッカー(習慣化のためのチェックリスト)を作成した。これは、子どもをよくするための、教師自身が変わるためのツールです。

【使い方】

- 1人1人の強みを見つけ、子どもが保護者・教職員、地域の大人に伝えられるようにする。その子の自身になるほらちろん、子どもを支える大人のまごころも大切にしたい。
- 【使役】
 - 1人1人の強みに、数分間、子ども1人1人1人の関わりを出してみよう。
 - 思い出せたら、トラッカーに○をします。思い出せない場合は、努力はしたので、△を記入します。△が多い子どもは自分が普段あまり関わっていない子どもかも知れません。意識的に関わっていくことができます。
 - もし、具体的なエピソードを書く余裕があれば、日付とエピソードを記入しておきます。例に挙げているような姿があった場合は、その欄に日付や簡単な理由を記入しておきましょう。
- 【続けるためのポイント】
 - 1人1人を1週間ほど使います。年報を提出して、4月に全員の印刷し、ファイルに入れておくのがおすすめです。毎日振り返り時間やホッとタイムで設定しておくことができ、職員はしんどいですが、やっつけいくには慣れます。
 - 【続けるメリット】
 - 教師間で、子どもに伝えられる!
 - 個人間で、保護者に伝えられる!
 - 地域の方との打合せで伝えられる!
 - 所見や提案に使える!
 - そして何より、自分自身の子どもを見る眼差しが変わります!
 - そして、子どもへの声のかけ方が変わります!
 - 【幅を広げよう】
 - 1年生以外の学年でも使えます。
 - 他の先生達と一緒に励まさないで取り組むのもいいですね。



1年生サポートナビ
～子ども達のために環境を整えよう～



「子どもの立場に立った」環境づくりや大人の関わりで、1年生が安心して過ごせるように、みんなでサポートしませんか。

1年生にとって安心感につながれば、全児童・全職員の安心感につながるのではないのでしょうか。

学級全体に行う支援を一次的支援と言います。『子どもの立場に立った』一次的支援を充実させることで、特別な支援を必要とする子どもも、どの子どもも安心できる学級づくりを目指しましょう。



1年生に関わる
大人**全員**が
わかる場

活用・改善

対話を重ねる
きっかけ

子ども達が安心して学校
生活を送ることができる。



今後に向けて





雲南市立斐伊こども園

特に何かをしなければということはない。

子ども達が小学校へ入学するのが楽しみと思えるような生活を送ることができるようにする。

雲南市立斐伊小学校

(幼小連携を進める中で、)子ども達の急激で大きな、目に見える変化は難しい。

だけれども、教師の子どもへの見方、まなざしは変わったのを感じる。

横浜市立大岡小学校

気になる児童が夢中になるかどうか。その子を中心に生活科や総合的な学習の時間の材を決める。



1年生サポートナビ

～子ども達のために環境を整えよう～



「子どもの立場に立った」環境づくりや大人の関わりで、1年生が安心して過ごせるように、みんなでサポートしませんか。

1年生にとって安心感につながれば、全児童・全職員の安心感につながるのではないのでしょうか。

学級全体に行う支援を一次的支援と言います。『子どもの立場に立った』一次的支援を充実させることで、特別な支援を必要とする子どもも、どの子どもも安心できる学級づくりを目指しましょう。



子どもの立場に立った大人の関わりと環境づくりが、一次的支援の充実につながる

- どんな感情でも受け止めてもらえると子どもが感じるような関わり
- 子ども達1人1人を思い浮かべ、全ての児童が「わかる」「できそう」「楽しそう」と思えるような環境づくり

接続に向けて、大人のつながりをつくる

- 校内の体制づくり
- 学年が変わるときにもあてはまる
- 「1年生サポートナビ」をもとにお互いの実践を振り返ることで、子ども達が安心感をもって生活できる学校になっていくのではないか

▶▶ ご清聴ありがとうございました。 ▶▶